La Petite Empreinte

ラ・プティト・アンプラント

地域：Bourgogne ブルゴーニュ

地区、村：Saint Bris サン・ブリ

醸造・栽培責任者：Mélissa Bazin & Romain De Moor

メリッサ・バザン & ロマン・ド・ムール

HP: https://www.facebook.com/profile.php?id=100063566409663

https://www.instagram.com/lapetiteempreinte.vin/

【ワイナリー・造り手について】

ラ・プティト・アンプラント＝小さな一歩といった意味でしょうか。ローヌ＝アルプ地域圏、ドローム県出身のメリッサと、90 年代から独創的なシャブリを造るアリス・エ・オリヴィエ・ド・ムール夫妻の一人息子、ロマンのカップルのワイナリーです。二人が知り合ったのはジュラのとあるワイナリーでお互いに働いていた時のこと。それまでは各々自分の興味のあるスタイルのワイナリーで経験を積んでいました。メリッサは、地元からも近いアルデッシュの造り手たち、ロマンはボジョレーのラピエール、そしてジュラのラベやガヌヴァのもとで経験を積んできました。

2020 年に、ブルゴーニュ北部のサン・ブリのエリアに 1ha に満たない畑を購入し、メリッサとロマンの二人は自身のワイン造りを始めます。購入した畑は、ビオロジック栽培に転換したばかり、セラーもアリス・エ・オリヴィエ・ド・ムールのセラーを一部間借りして醸造していますが、もちろん彼らのワイン造りにド・ムール夫妻が口を挟むことはありません。

【畑・栽培について】

2022 年現在所有しているのは 3 つの畑で、まず 2 つの畑を合わせて彼らが畑の管理を始めたのは 2020 年から。品種はソーヴィニョン・ブランとピノ・ノワールと少しのガメ。

◆ル・オー・クタンス（le haut coutance）

全部で 60a のピノ・ノワールが植わっており、40a が 1978 年植樹、17a は 2022 年に二人で植樹した。彼らの赤ワインの tapis rouge に使用。

畑の取得が 2020 年なのでビオ転換も同年からで、写真の通り、白い石灰岩が多く土の表層によく露出している。

◆シャシー（Chassy）

1960 年代に植樹された 40a のソーヴィニョン・ブランの畑。2020 年に購入表土は粘土層が比較的厚く、下層土はマルヌ・ブランシュ（泥灰土壌）。ソーヴィニョン・ブランの方が通常ピノよりも 10 日ほど収穫が遅い。

◆コート・モワンヌ、レ・ショーム（Côte moine、les Chaumes）

2022 年 3 月に取得した、隣り合うトータルで 1ha の畑で、こちらも以前は慣行農法で管理されていた。主にピノ・ノワール、と数十列だけのガメが植わっており、ソーヴィニョン・ブランはわずか。薄い粘土層で、西向きの為午後の日差しが強い。

【セラー・醸造について】

セラーは、ロマンの両親のワイナリーでもある、クルジ（Courgis）村のアリス・エ・オリヴィエ・ド・ムールのセラーを間借りしています。醸造中の亜硫酸はできるだけ使わないようにしているが、瓶詰の段階では添加を現在はしている。ノンフィルター。